



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／福田 充雄 島根県奥出雲町阿井公民館 館長
北村恵理子 佐賀県立生涯学習センター 企画主任

分科会の進め方

10:45~10:50

1 幼稚園・家庭・地域をつなぐオヤジの会の挑戦 ーやりたいことを形にするプロジェクト・チームのカー

10:50~11:20

田中 一臣(鳥取県湯梨浜町) 湯梨浜町立松崎幼稚園082(オヤジ)の会 元PTA会長

竹などを使って作る半球形の「スタードーム」でお泊り保育を実施したことをきっかけに、平成22年保護者の有志が「面白いことをして一杯飲まいや」を合言葉にオヤジの会を立ち上げた。10割の参加率。出席の強要、規約等はなく、やってみaitと思つた時からプロジェクトがスタート、やろうと言つた人がリーダー、周りはフォローア一にまわる。アイデアは常に前向きに取り上げる。商工会、地元消防団と組んだ園外活動「松崎探検隊」、朝市フリーマーケットへの参加、除雪作業、お寺の山でのロッククライミングなど地域との関わりが増え、父親と母親がともに子育てをする環境が生まれている。

2 困難な状況にある青少年を対象とした体験学習プログラムの開発 ー児童相談所・児童養護施設・里親関係者との連携ー

11:25~11:55

宮本 慎也(山口県) 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職
弘中 昭子(山口県) 山口中央児童相談所 児童福祉司
大西 清文(福岡県) 九州ぼうけん王

当「青少年自然の家」では、「徳地アドベンチャー・プログラム」(以下TAP)と呼ぶ体験学習プログラムを開発して来た。本報告は、TAPを社会的養護・支援を必要とする子どもたちに適用した場合の効果、変容、留意事項など「困難な状況にある青少年を対象とした支援プログラム」試行・検証協力者委員会が行つた調査結果を主たる内容としている。本事業では、対象となる子どもの実態を勘案し、TAPのほかオーダーメイドのプログラムを付加し、事前事後のサポートプログラムも出前している。実施後は、子どもの「主体性」、「協調性」、「信頼関係」などの変容を分析すると同時に、関係施設職員の考え方や態度の変容についても合わせて分析している。

3 鞍手竜徳高等学校の「子育てサロン」の複合機能 ー学校と社会教育と地域を結ばこんなことができるー

12:00~12:30

宮若市教育委員会／福岡県立鞍手竜徳高等学校(福岡県宮若市)
荒牧 直子(福岡県宮若市) 宮若市教育委員会 社会教育課 地域活動指導員

宮若市には3つの中学・高校に子育てサロンがある。中学校のサロンは「思春期の乳幼児親子との交流」を重視した校長の視点が実現の力となった。高校サロンは、サロン事業を高校にまで広めたい社会教育課・サロンスタッフと、福祉課程の授業で乳幼児親子との交流をしたい高校教諭の思いが重なり実現。開催は、平成23年度に6回、平成24年度に9回、開催時間は9:30~14:00で、出入り自由、情報の交換、悩み事相談、読み聞かせ、生徒との交流、母親同士の交流などを企画している。サロン活動の予算は社会教育課が負担し、スペースや駐車場は高校側が提供している。思春期に乳幼児やその保護者と交流する体験は、高校生に様々な教育効果をもたらしたと同時に、高校生と接した保護者にも新鮮な体験を提供している。サロンは、子育て支援であり、開かれた学校づくりであり、学社の連携であり、地域との連携でもある。